

静岡県漁業協同組合連合会

1112 静岡市追手町 9-18
16.10.1 054-254-6011
編集・発行 = 指導部漁政課

1. 平成16年度県漁協組合長会議・研修会開催される

本会では去る9月29、30日の両日伊豆長岡町において平成16年度漁協組合長会議を開催しました。

29日は西川会長の挨拶の後、研修会が行われ、最初に全漁連漁政部長屋信博氏による「沿岸漁業・漁村活性化に向けた政策提言」、次に東京海洋大学教授馬場 治氏による「漁協合併と漁村再生を探る / 漁村の将来と漁協の役割」と題して講演が行われ、続いて「漁協基盤強化方針策定に係る地区別会議」の報告が行われました。

翌30日には竹内純一県農業水産部水産総室長の挨拶があり、引続き西川会長が議長となり議事進行を行い、昨年の要望事項に対する措置状況並びに平成16年度県水産予算に対する措置状況について夫々報告が行われました。続いて本年度各地区運営委員会からの提出問題を協議した結果、次の項目について要望していくことになりました。

要望事項： 伊勢湾・遠州灘系群トラフグ資源の資源回復計画の推進について

栽培漁業の技術的な成果を活用したアワビ資源回復計画の推進について

沼津地区の海面養殖業の振興施策の展開について

本県漁業の組織体制整備、基盤維持並びに振興対策について

未曾有の不漁に見舞われたシラス船曳網漁業への金融支援対策並びに漁業共済掛金に対する県費助成について

漁業調整規則の一部改正について

栽培漁業に係る県組織改革に伴う漁業界への対応について

沿岸漁業経営維持制度としてのセーフティネットの構築について

なお、これら8項目の要望事項については実行委員会の協議を得て県関係機関に対し陳情していくことにしています。

その後、「漁協基盤強化方針策定に係わる協議」が行われ終了しました。

2. 水産王国しずおか首都圏PR事業計画まとまる

本会並びに県水産振興室では、本県水産物の消費拡大、価格安定を期するため、大消費地でのPR活動が不可欠であるとして、首都圏のホテルで漁業者自身がPRを実施する「水産王国しずおか首都圏PR事業」の計画をまとめました。

本県は全国有数の水産県であり、サクラエビやキンメダイ、シラスなど特徴的な水産物が水揚げされていますが、東京など巨大消費地ではあまりそのことが認識されていない状況にあります。こうした中最近では県内で漁獲されるトラフグやハモなどをブランド化し、これを使って首都圏からの観光客の誘客に努める動きも出てきています。

一方漁業者は、漁獲に関しては専門家ですが、どのように付加価値をつけて販売するかについての知識が少なく、生産者と消費者との間に様々な販売ルートが介在し、生産者の顔が見えにくい構造になっていることなどから、生産者自らがPRする事業を展開し

ます。

会場では、東京などの首都圏のマスメディアや水産関係者、流通関係者、旅行業者等を集めて、県内水産関係者が本県の特徴的な水産物や深層水等についてのプレゼンテーションとともに、県内水産物を使った料理を試食してもらってレセプションを開催します。更に会場内には各魚種別のブースや商談場所を設け、マスコミやバイヤーに対し商品の売り込みや商談を行うほか、ブルーツーリズムの取り組み紹介など、都市と漁村の共生・対流を進めることにしています。また、静岡空港など本県の主要事業のパネル等を展示し、静岡県自体の売り込みも図ることにしています。

出展が予想される魚種等 = キンメダイ・シラス・テングサ・アジ・サバ・マグロ・カツオ・ニジマス・サクラエビ・ウナギ・トラフグ・ハモ・クエ・水産加工品・深層水関連商品など

3. 全国漁業協同組合学校が新たな学校づくりに取り組む

全国漁業協同組合学校(千葉県柏市)ではこのほど、平成17年度(第66期)の学生募集に向け、新しい学校案内パンフレット(基礎コース)を作製しました。

同校は、JFグループ唯一の教育専門機関として長い歴史を持っていますが、近年は入学する学生数が漸減傾向にあり、経営的にも厳しいものになっています。そうした中、JFグループからの人材育成への活用を求める「新全国漁業協同組合学校構想」の提言を受けて、新たな学校づくりに取り組んでいます。

提言では従来の通年コースを見直し基礎コースとするほか、新たに階層別研修の3コースを新設するように求めています。

経営戦略コース = 自己責任経営の確立を担う経営層もしくは将来の経営を担う基幹的人材のリーダーシップと総合マネジメント能力の強化を目指すコースで、通信教育を組み合わせるにより多忙な役員、幹部職員も参加可能とする。

監査士養成コース = 監査士試験の学習を通じて経営管理や内部監査等を行える能力を養成し、自己責任経営体制の確立に向け、経営層を補佐し得る企画・管理能力の強化を目指すコースで、試験合格に必要な学習時間を確保します。

漁協事業コース = 専門的知識、営業感覚および戦略的発想等を身に付け、JFの自己責任経営に資する能力を身に付けることを目指すコース。

また基礎コースは従来の通年コースの目的である将来の中核的職員として成長するために必要な協同理論、漁業・JFの事業に関する基礎教育を活かしつつ、より実践に近い教育をするため、実務に直結する資格取得を強化した教育内容に改革するとしています。

4. 諸会議・日程(10月4日(月)～10月18日(月))

- 既報分省略 -

10月 4日(月) 県おさかな普及協議会 = 第3回おさかな料理コンクール書類審査会
(県水産会館)

10月13日(水) 県漁業共済組合 = 監事会 (共済組合事務所)

10月14(木)～15日(金) JF静岡女性連 = 幹部研修会 (焼津ホテル)

10月15日(金) 県漁業共済組合 = 理事会

〃 県漁業共済事業推進協議会委員・幹事合同会議 (県水産会館)